

教育研究創発国際研修における学術活動報告書

令和 4年 5月 6日

氏名 日下 桜子

所属 身体教育学 コース

指導教員名 佐々木 司 教授

1. 研究課題 児童・生徒の精神保健に関する保護者の知識・理解向上に向けた教育プログラムの開発

2. 報告する学術活動の実施期間 公表日：令和 4年 5月 2日 ～ 令和 年 月 日

3. 日本学術振興会特別研究員（DC）の現在の採用状況 DC1 DC2 採用無し

4. 学術活動

国外 国内

①英語論文公表

②研究科教員の研究プロジェクト参加

③フィールドワーク

④国際会議（研究発表 運営補助 出席のみ）

⑤研究会（研究発表 運営補助 出席のみ）

⑥研究指導委託

⑦留学

⑧国際研修

⑨国際インターンシップ

⑩その他（具体的に：

5. 学術活動実施の概要

※上記4で選択した学術活動について具体的に記載してください。括弧内の概要を必ず記載してください。

- ① 英語論文公表
(著者、発表論文名、掲載誌名等、発表年月巻号、発表年月日等、論文内容の概要)
- ② 研究科教員の研究プロジェクト参加
(プロジェクト名、代表研究者名、自身の具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度、プロジェクトの概要)
- ③ フィールドワーク
(調査先機関等、国名・都市名、具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度、調査先の概要)
- ④ 国際会議
(研究発表・運営補助・出席のみ の別、学会・会議名、国名・都市名、発表題目名、発表形式(口頭・ポスター等)、発表年月日、発表内容等の概要)
- ⑤ 研究会
(研究発表・運営補助・出席のみ の別、研究会名、国名・都市名、発表題目名、発表形式(口頭・ポスター等)、発表年月日、発表内容等の概要)
- ⑥ 研究指導委託
(派遣先機関、国名・都市名、受入身分及び研究、研究テーマと受入教員、受入期間(年月日)、具体的な研究活動、研究発表内容等の概要)
- ⑦ 留学
(派遣先機関、国名・都市名、受入身分及び研究科、受入期間(年月日)、具体的な履修状況、研究発表内容等の概要)
- ⑧ 国際研修
(プログラム名、派遣先機関、国・都市名、派遣期間(年月日)、プログラム概要、研究発表内容等の概要)
- ⑨ 国際インターンシップ
(プログラム名、派遣先機関、配属部署、国・都市名、派遣期間(年月日)、具体的な活動、プログラム内容等の概要)
- ⑩ その他(具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度等の概要)

学術活動区分 (①～⑩を記入)	①
<p>著者：Sakurako Kusaka, Satoshi Yamaguchi, Jerome Clifford Foo, Fumiharu Togo, Tsukasa Sasaki 発表論文名：Mental Health Literacy Programs for Parents of Adolescents: A Systematic Review 掲載誌名：Frontiers in Psychiatry 発表年月巻号：13: 816508 発表年月日：2022年5月2日 論文内容の概要： 思春期の子どもを保護者を対象に、メンタルヘルスリテラシー(Mental health literacy: MHL)を高めるための教育プログラムの効果検証を行った研究を系統的レビューし、プログラムの効果を総合的に検討した。採用文献10編を精査したところ、効果検証の質は様々であり必ずしも高くないことが分かった。このような研究で報告された結果ではあるが、複数の研究で介入後に保護者のMHLの有意な向上がみられた。今後、方法・結果の明瞭な記述を伴う質の高い効果検証が必要と考えられる。</p>	

- (注) ① 年月日は西暦で記入してください。
 ② 英語論文発表については報告する学術活動において発表又は受理されたもの。
 ③ 上記に記載しきれない場合は、ページを追加しても差し支えありません。
 ④ 複数回の学術研究活動による報告の場合、適宜本ページを追加し、2つ目以降についても必要な内容を網羅してください。

6. 学術活動による成果

※報告する学術活動について、教育分野における国際的リーダー人材の育成とその研究成果を海外に発信することを目的とした教育研究開発国際研修の趣旨に照らし、その成果を具体的に記載してください。学術活動により得られた自身の研究課題につながる成果についてもわかるように記載してください。

※本欄に書ききれない場合、ページを追加しても差し支えありません。

【学術活動による成果】

英文論文の公表により、研究課題「児童・生徒の精神保健に関する保護者の知識・理解向上に向けた教育プログラムの開発」のこれまでの研究成果を海外に発信した。公表内容（MHL プログラムの保護者に対する効果の検証のレビュー）は、保護者向け MHL 教育の今後の発展の基盤になると考えている。なお、オープンアクセスジャーナルで公表したため、研究者のほか、教育実践者や行政関係者等にも広く知見を受け取ってもらいやすいと思われる。また、公表に至る過程での査読者や編集者とのやり取りを通して、国際的な研究者にはどのようなコミュニケーション技能や考え方が必要かを知ることができた。同時に、それらの力を高められたと感じている。

【自身の研究課題につながる成果】

英文論文の執筆や、査読者とのやり取りを通して、既存の教育プログラムの効果や効果検証の質に対する考察をさまざまな視点から深められた。ここで得た視点や深めた考察は、保護者に広く受け入れてもらえる教育プログラムを作るうえで非常に重要だと考える。このように英文論文の公表過程で、本研究課題の核である「新たな教育プログラムの開発」につながる貴重な成果を得た。